

第十講座 エントリーシート  
 [本講座]デカルトの真理観  
 [プラス講座]デカルトが説く理性と情念

[主要推奨文献]

- [10あ]デカルト著 落合太郎訳 『方法序説』 岩波文庫  
 [10い] デカルト著 桂寿一訳 『哲学原理』 岩波文庫  
 [10う] 野田又夫著 『デカルト』 岩波新書  
 [10え] 吉見俊哉 『大学とは何か』 岩波新書

レポート③用選択テーマ

テーマ 整理番号	テーマ内容
10-1	◎中世ヨーロッパ(12~17世紀)大学の成立と推移 講義録項目[10A, B]に関連 イタリアのボローニャ大学をはじめ、12世紀以降にヨーロッパで「大学(学生 団)」が成立した経緯、またその後の学部組織や教育内容がどのように推移し たか。 推奨文献関連箇所[10え]p24-78
10-2	◎デカルトの「知恵の木」 講義録項目[10D]に関連 デカルトの「知恵の木」では学問の目的や学ぶ順序がどのように考えられて いるか。 推奨文献関連箇所[10い]p22-24 [10う]p55-61
10-3	◎デカルトの「仮の道徳」 講義録項目[10E]に関連 デカルトがなぜ「仮の道徳」が必要だと考え、その内容はいかなるものであつ たか。 推奨文献関連箇所[10あ]p34-43 [10う]p78-86
10-4	◎デカルトの「方法的懐疑」と「考える我」 講義録項目[10F~G]に関連 デカルトの「方法的懐疑」とはいかなる探求姿勢であり、それによってなぜ 「我思うゆえに我あり」という真理を見いだせたのか。 推奨文献関連箇所[10あ]p44-45 [10う]p87-106
10-5	◎デカルトの真理探究 講義録項目[10H~I]に関連 「我思うゆえに我あり」からさらに進んで、デカルトはどのような方針にもと づき真理探究を継続したか。また真理認識が「自由」に結びつくとしたが、そ れはいかなる意味であるか。 推奨文献関連箇所[10う]p114-123, 163-177

↑レポート③タスク[あ]には、自分が選択したテーマの**赤枠内の整理番号**(例: 10-3)を  
明記してください。

レポートで文献参照する場合、上記の推奨文献を用いる場合は、レポート末尾に記号  
を用いて[10あ]等の仕方で表示できます。(デカルトの著作については岩波文庫以外  
の版を用いても構いません。)

第十一講座 エントリーシート  
 理性的存在としての人間 —カント—

[主要推奨文献]

[11あ]カント著 篠田英雄訳 『道徳形而上学原論』 岩波文庫

[11い] 宇都宮芳明著 『カントの啓蒙精神』 岩波書店

[11う] 吉見俊哉 『大学とは何か』 岩波新書

レポート③用選択テーマ	
テーマ 整理番号	テーマ内容
11-1	◎カントの「行為の道徳的価値」講義録項目[11B]に関連 カントは「行為の道徳的価値」をどのように考えたか。「意志」や「義務」に関連 づけて記述しよう。推奨文献関連箇所[11あ]p22-50 [11い]p91-124
11-2	◎カントの「定言命法」講義録項目[11C][11D]に関連 カントの「定言命法」は「仮言命法」とどこが違うか。また、カントが定言命法 としてあげたもの(根本方式や人格尊重など)の内容はいかなるものか。 推奨文献関連箇所[11あ]p85-103 [11い] p91-124
11-3	◎カントの「完全義務と不完全義務」講義録項目[11E]に関連 カントは「完全義務」「不完全義務」というものをどのように説明しているか。 推奨文献関連箇所[11う]p104-107
11-4	◎カントの大学論 講義録項目[11F]に関連 カントは大学における哲学部の役割を提言したが、それは大学にとって何を 必要と考えていたからか。推奨文献関連箇所[11う]p81-87

↑レポート③タスク[あ]には、自分が選択したテーマの**赤枠内の整理番号**(例：11-3)を  
 明記してください。

レポートで文献参照する場合、上記の推奨文献を用いる場合は、レポート末尾に記号  
 を用いて[11あ]等の仕方で表示できます。(カントの著作については別の訳者や出版  
 社の版を用いても構いません。)

第十三講座 エントリーシート

[本講座]唯物論的自然観 —エルヴェシウスとマルクス—

[プラス講座①]ニーチェと永劫回帰

[プラス講座②]カントの平和論

[主要推奨文献]

[13あ]宗像恵・中岡成文編著 『西洋哲学史 近代編』 ミネルヴァ書房

[13い]小宮彰著 『ディドロとルソー 言語と《時》 十八世紀思想の可能性』  
思文閣出版

[13う]長谷川宏著 『初期マルクスを読む』 岩波書店

[13え]ニーチェ著 阿部六郎訳 『この人を見よ』 新潮文庫

[13お]カント著 池内紀訳 『永遠平和のために』 集英社

レポート③用選択テーマ

テーマ 整理番号	テーマ内容
13-1	◎ロックの経験論 講義録項目[13B]に関連 ロックの経験論とはいかなる内容をもつもので、ロックが「唯物論者」とは言 われないのはなぜか。 推奨文献関連箇所[13あ]p88-94
13-2	◎エルヴェシウスの感覚重視の唯物論 講義録項目[13C][13D]に関連 エルヴェシウスは、道徳判断を含む一切の判断が、感覚をもとに成り立つと するが、その説明はどのような内容のものか。 推奨文献関連箇所[13あ]p131-136 [13い]p42-66
13-3	◎マルクスの労働観 講義録項目[13F][13G]に関連 マルクスは労働の意義をどのように考えたか。また「労働の疎外」とはどのよ うなもので、疎外から解放されるには何が必要だと考えたか。 推奨文献関連箇所[13う]p57-122
13-4	◎ニーチェの永劫回帰 講義録項目[13H][13I]に関連 ニーチェの「永劫回帰の肯定」にはどのような人間観、世界観が根底にある か。彼は「永劫回帰」を通じて何を訴えようとしているのか。 推奨文献関連箇所[13あ]p281-283 [13え]p114-123(「悲劇の誕生」の項)
13-5	◎カントの平和論 講義録項目[13J][13K]に関連 カントは「戦争」というものを、他人をどのように扱うことから生じると考え ているか。また、戦争を防ぐためにいかなる提案をしているか。 推奨文献関連箇所[13お]全般

↑レポート③タスク[あ]には、自分が選択したテーマの赤枠内の整理番号(例: 13-3)を  
明記してください。

レポートで文献参照する場合、上記の推奨文献を用いる場合は、レポート末尾に記号  
を用いて[13あ]等の仕方に表示できます。(ニーチェおよびカントの著作については  
他の訳者や出版社の版を用いても構いません。)

第十四講座 エントリーシート  
「物語の主体」としての自己 —マッキングティア—

【主要推奨文献】

- [14あ] マッキングティア著 篠崎榮訳 『美德なき時代』 みすず書房  
[14い] マイケル・サンデル著 鬼澤忍訳 『これからの正義の話をしよう』 早川書房

レポート③用選択テーマ

テーマ 整理番号	テーマ内容
14-1	◎マッキングティアの「徳倫理学」について 講義録項目[14C]に関連 マッキングティアの「徳倫理学」は何をめざすものであるか。また、彼はアリストテレスの「友愛」をどう評価したか。 推奨文献関連箇所[14あ]p179-201 [14い] p270-314
14-2	◎「行為の理解可能性」について 講義録項目[14D][14E]に関連 マッキングティアは、「行為の理解可能性」をどういう点においたか。また、それに関連して行為が「物語的な歴史」に結びつけられるのはどういう点か。 推奨文献関連箇所[14あ]p250-276 [14い] p270-314
14-3	◎「物語の主体」として善く生きる 講義録項目[14F][14G]に関連 マッキングティアが自己を「物語の主体」とみなす考えでは、「私」が生きること はどのようにとらえられていて、またどのように生きるのが善い生き方だとされるのか。 推奨文献関連箇所[14あ]p250-276 [14い] p270-314

↑レポート③タスク[あ]には、自分が選択したテーマの赤枠内の整理番号(例：14-3)を明記してください。

レポートで文献参照する場合、上記の推奨文献を用いる場合は、レポート末尾に記号を用いて[14あ]等の仕方で表示できます。